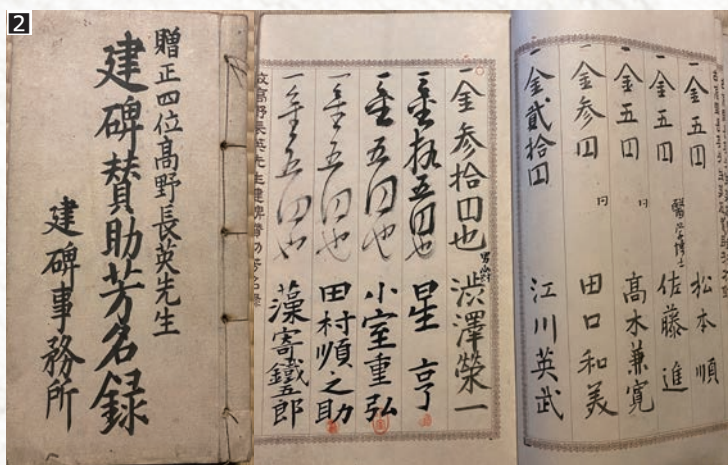




1 高野長英記念館入口の右手にある贈正四位高野長英碑。長英の事績について、漢文で記されている。文章は、江戸時代の儒学者・広瀬淡窓の門人、谷口中秋の作



2 新発見の「贈正四位高野長英先生 建碑賛助芳名録」。建碑事務所でまとめられた建碑に賛助金を支払った人々の名簿。華族から、国会議員、学者、市井の人々に至るまで、幅広い人々が建碑に関わっていたことが分かる

奥州遺産

— ときを越え

受け継がれるもの —

第144回

贈正四位高野長英碑

Ⅱ 高野長英記念館敷地内Ⅱ

幕府の異国船打ち払い令を批判し、開国を説いた幕末の蘭学者・高野長英。水沢公園の一面にある高野長英記念館の敷地内に、ひととき大きな石碑がそびえ立っている。この石碑は、明治34年建立の「贈正四位高野長英碑」。長英の子孫で、罪人のまま非業の死を遂げた長英の復権を目指して活動した高野長運が中心となって建立したものである。

この復権活動は、後藤新平や斎藤實はもちろん、当地域選出の衆議院議員・下飯坂権三郎や、後に衆議院議員となる実業家・高橋金治など水沢出身の人々が参加する一大事業であった。彼らの熱心な活動の結果、中央政財界から多くの協力を得て、同31年に政府から長英に「正四位」が追贈された。石碑は、この活動の集大成として建てられたのである。

このように、建碑に至るまでには、中央政財界を巻き込んだ大規模な復権活動があった。復権活動によって地域がどのように変化したのか。その研究は、まだ始まったばかりである。

広告